

鳥屋山—倉岳山

山行日：2014.01.25 参加者：h, t単独 天候：曇り
 コース：梁川駅/8:05—唐栗橋/8:25—取り付/8:32—478m/8:48—530m/9:13—ロープ
 /9:34—鳥屋山/9:55—細谷山/10:40—立野峠/10:48—倉岳山/11:23/11:50—
 860m/12:08—へそ/121:19—720m/12:36—298/12:53—500m/13:15—
 林道/13:24—三叉路/13:47—鳥沢駅/14:15



梁川駅に下車したのは2名のみ
 倉岳山登山道入口を通り過ぎ、唐栗橋を渡ってその先の電柱から尾根に取り付く



今回は
 ピンクラインの
 バリエーション
 ルートの
 下見

倉岳山山頂からは四つのバリエーションルートの尾根が里山に向かって降っているが、支尾根が多くあり高度のルートファインティングが要求される日陰の道路路面はアイスバーン状態





目立たないようにある赤テープが入口
落ち葉で埋もれて滑りやすい斜面をし
ばし踏ん張って登ってゆく



やがて尾根に乗ったようだ。黄色のテープがある
そして尾根にケモノ（タヌキ）の糞溜まり



これもタヌキの足跡か



かなり高度を稼いできた
四方津駅方面が見えている
糞の溜まり場が多くある



ようやく稜線が見えてきたが、あいにくの曇り空で視界はイマイチ



急斜面にはロープが取り付けられていた





この鳥屋山北尾根には木の実がなる樹木が多いようだ
どんぐりと胡桃が沢山落ちている



これだけ木の実があればケモノの
多く入るのもうなずける残雪
が溶けずに残っている



やがて鳥屋山山頂に着く
狭い山頂であったがすぐ倉岳山へ向
かう

登ってきた北尾根の
暗い斜面とうって
変って
明るい尾根歩き



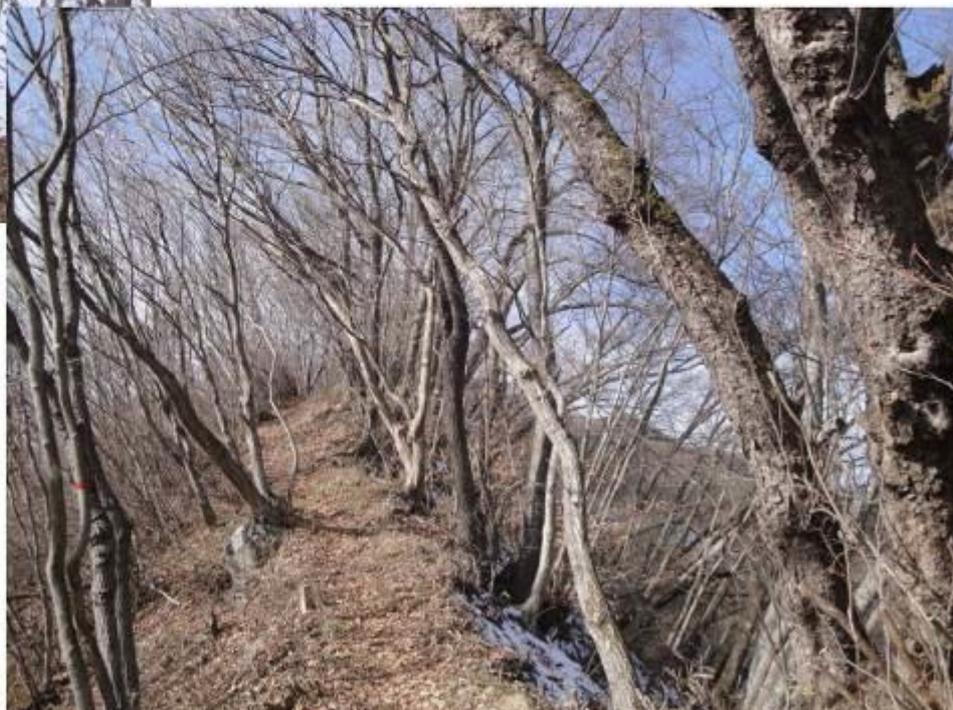


絶好のプロムナー ドコース



頑張って這い上がってきた鳥屋山北尾根だ

青空も出てきた
もう
言うことなしの尾根歩き





伐採地からの富士山

道志山塊
赤鞍ヶ岳



正面は
秋山二十六夜山中
央再奥に蛭ヶ岳





鳥屋山からアップダウンを既に5回繰り返してピークを越えてきている

倉岳山への100mの高度差が壁のように見えた

富士山は霞んで見えにくい





山頂には誰もいなかったがお
弁当を食べて入るうちに沢
山のハイカーが
集まってきて賑やかに

滝子山から小金沢連嶺、大菩薩 雲取山、大岳山、笹尾根、権現山、扇山、百蔵山



一般登山道から外れて
いよいよバリルート
まずは北尾根へ入りますが、雪面には前
任者の踏み跡がない
高度計、コンパス、地図を出し
緊張感がただよう瞬間・・・



慎重なルー トファイティングが要求される
雪が深くなり急斜面となってきたので
安全のためアイゼンを装着する

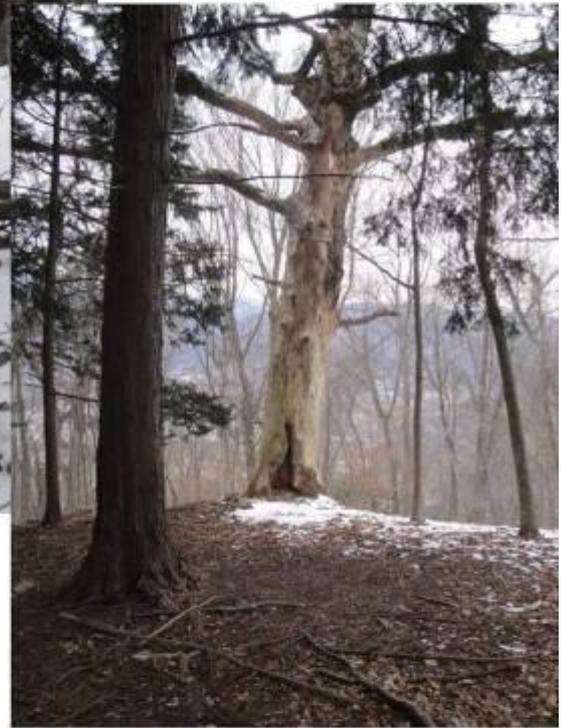




まずは方向を確認し赤テープを探しながら・・・



かなりの急斜面である



やがて北尾根と北西尾根の分岐点、モミの大木地点に

ここから左の尾根へ下る



へそと呼ばれる水溜り
すぐその上に雨乞社があるここからは
仕事路がしっかりとつづいていたのだが





綺麗な参道のような道が里山に向かって



ゆっくりと降りてゆく

しかしここで突然道がなくなり
広い急斜面の尾根となる
踏み跡不明瞭にて方向を定めて



落ち葉が堆積しており
地面が凍結しているのか
するする滑って足の踏ん張りが利
かない・・・コース中一番嫌なと
ころであった



いくつかの
ピークを越えて
ポイント箇所
の道標298に出
た

この先のピーク
から左は
小篠貯水池方向

今回は右側下畑集落を目指す



このあたりから右に向きを変えて
あやふやな踏み跡を進み
やがて小さな沢に降り立つ

またもやポイント箇所である篠竹のヤブ



イノシシ狩りの檻があった





ここは林道の終点
すぐに金網の扉がある



給水塔を過ぎると下畑集落に



降りてきた三叉路に三界万霊碑がある中
中央の道路を下りてきた

北尾根の取り付け点は
左の道を行ったところのすぐ先



道なりに畠の中を進み
だらだらと降りて行くと
下畑橋と虹吹橋の二つの橋がつ
づいている

いつもの鳥沢駅までのんびりと



鳥沢駅ホームから望む倉岳山北西尾根

多くの支尾根がありわかりにくい訳である



まだ未踏破の尾根が3 ルー トも残っている
次回のお楽しみ・・・